

日本における最初の私立幼稚園とその背景 (5)

—— 桜井ちかと桜井女学校附属幼稚園 ——

小林恵子

今回は、最終回として日本で最初の私立幼稚園を創立した桜井ちかと桜井女学校附属幼稚園のことを中心に書いてみたい。

一、創立者、桜井ちか（知嘉）

この学校の創立者、桜井ちか（安政二—昭和三年）は江戸日本橋に生れた。安政二年というとペリー提督が黒船を率い浦賀沖にあらわれて二年後で日本は鎖国の眠りから目覚めさせられたときである。ちかの父、平野与十郎は徳川歴代将軍の靈廟に神器を納める御用商人であつた。これは結婚後、さきにキリスト教徒になっていた妻のちかの影響が大きかったと思われる。

やがて明治五年、十八才で海軍士官、開拓史の船安藤丸の船員であった桜井昭恵と結婚した。昭恵は愛媛県大洲町若宮の神官の長男であつたが、同九年、米国宣教師タムソンから洗礼を受けキリスト教徒となり、海軍を辞し同十二年には日本基督教会の牧師として伝道に従事した。

ちかの勉学は結婚後で夫の昭恵が船員で留守が続いたため、向学心の強い彼女は英語を学ぶため同五年、齊藤

つね子が経営する神田の芳英女塾に入塾した。こゝは日

本人経営の女塾として一番古いものと云われ、教師のな

かには野球の最初の指導者として知られるホーレス・ウ
イルソンの妻がいた。^{註(2)}当時の授業法は教師が生徒を教え

るだけでなく上級生が下級生を教えるやり方で、ちかは
半年ほど学んすぐ下の組を教えており学んだ知識を無
駄にせず他人へ奉仕することが当然のことと習慣づけら



桜井ちか

れ、この経験は、ちかが女学校を設立するときに大変役立つものと考えられる。

ちかが教会に通い始めたのは芳英女塾で英文を読んでいた時、文章の中に“*Our Father……*”とあり、二番

目の字であるFが頭文字で始まっていることを不思議に思い教師に尋ねたところ築地の宣教師に聞くように云わ

れカロゾルス夫妻の教会に行つたことに始まる。そこで
*Father*は天の父である神のことを指すと教えられ、こ
れをきっかけに新栄教会に出席し明治七年、宣教師タム
ソンから洗礼を受けた。^{註(3)}その後、横浜二一二番の共立女

学校に入学し英語と割烹の勉強につとめたがこの学校は横浜のミッションホーム（亜米利加婦人教授所）が女子教育機関として発展したものである。前回述べたので割愛するが、この学校の設立者である三人の婦人宣教師、ブライアン、ピアソン、クロスビーに接し学んだ人々から桜井ちかや二宮わかのように女子教育や幼稚園及び児童福祉の基礎を築いた人材が育っている。ちかがキリスト教になったのも当時の宣教師たちの人格的感化と聖書の教

えによるものでとりわけ当時のようないい男尊女卑の封建的
社会にあつては、女子が男子と等しく一個の尊い人格で
あるという考えは、彼女の心を強くとらえたのである。
それは女大学にみるような基督教的立場にたつ女性観では
なく、女性が女性

としての才能を十分に發揮し社会の一員として女性の役割を果すことで

あつた。とくに女子は将来、母として子どもを育てる任務があり男子と同様に学問が必要害と考えるのは大変なまちがいで女子教育こそ当時の



日本で最も必要なことゝ考えたのである。こうした女子教育への着手はキリスト教プロテスチアント宣教師の手によつて創設されたミッショナリースクールが先駆的役割を果しており、横浜のフェリス女学院を最初として先に述べた横浜共立女学校（現・共立学園）などがその先駆である。当時、こうした事業に当つていいたプロテスチアント系の指導者たちはキリスト教を基盤として人格の尊厳の意識と自由平等の理念にたゞ欧化思想をもつて近代日本を再建しようとする開拓精神にもえていたのである。そして、これらプロテスチアント系の宣教師のもとに集つた青年たちの多くは基督教的教養を身につけた反明治政府の武士階級の旧幕の出身で彼等が日本の近代化に指導的役割を果した。桜井ちかもその一人で、いわばその時代にあって個にめざめた新しい女性であつたと云えよう。

桜井女学校の開業願書に、ちかの履歴書が次のように記されている。^{註(4)}

害と考えるのは大変なまちがいで女子教育こそ当時の

愛媛県平民桜井昭恵妻

桜井 知嘉

安政二年乙卯歲四月四日生ル

明治五年四月ヨリ同六年十月迄府下神田柄木町芳英社江入塾シ女教師米国人ウエルソン氏及ヒ斎藤常女ニ從ヒ第一第二リートル文法書地理書万国史等ヲ習読ス

同六年十一月ヨリ同七年十月迄慶應義塾卒業生大窪実ト申者ヲ雇ヒ各国史窮理書經濟書修身書等ヲ學習ス

同七年十一月ヨリ米國女教師タムソン氏ニ從ヒ亦地理書窮理書修身書生理書ヲ讀ミ旁ラ作文數字等ヲ本年九月迄學習ス

一、桜井女学校、小学校、貧学校の設立

この履歴に共立女学校に学んだ事が記されてないのは何故であろうか。横浜共立学園同窓会名簿に卒業制度施行前修了生としてちかの名前が明記されている。個人教授を受けてまで学習を続けたのは私塾を開設し女子教育を始めようと考えてのことであつた。ちかが如何に主体的な行動力と旺盛な向学心を常に持ち続けたかは、後に三度にわたり渡米し女子教育を視察、同二八年、東京本郷に桜井女塾を開設し科学的な家政を重視し、料理に関する書を次々と著わしたことなどからもあきらかである。^(註5)

明治九年十月二十日、ちかは家塾開業願を提出し東京麹町中六番町一に八疊二間と玄関と女中室付の家を家賃五円で借り、少數の女生徒で女子教育を始めた。最初の校名を桜井女校といつたが、この家塾は日本女性がミッショーンの手をかりず独力で始めたキリスト教主義女学校として注目すべきものであつた。学校といつても今日の学校のようではなく少人数で寝起きを共にして生活ぐるみの教育であった。やがて、その家が手狭なため東郷坂上にあつた旧旗本屋敷に移転し、明治十二年十月には女学校内に高等小学科を設置した。こゝには六歳からの男女児を受け入れたが女学校であるため男子は十歳までと限定した。届けに生徒三五名（男子四名を含む）教員二人と記されている。^(註6) 六歳でこの学校に入ったガントレット恒（旧姓・山田恒。作曲家、山田耕筰の姉）は当時の思い出を次のように記している。「叔父は私をこの桜井女学校に入れることにした。私はまだ頑はない六歳の身

で母のもとを離れ、学校の寄宿舎に入るので先ず蒲団の上げおろしの練習をしたものだそうである。さて叔父は私を家から引離しはしたものの不安でたまらず、毎日牛込から番町まで通つて様子を見届けて帰つた。幸いにも桜井校長が生徒をよく愛され、殊に子のない先生は最年少者の私を愛して私が家に帰りたがると肌つ子おんぶ（肌にぢかに背負ふ）をして下さつたものである。」「構内には教室と寄宿舎のほかに校長の住宅があつて、おやつの時間になると、ちか子先生の御主人が縁側に立て、みなこい・みなこいと節をつけて呼んだものである。すると子供達は馳出していって塩煎餅や豆などを頂いてくるのである。ときには氷砂糖のこともあった。」^{註(8)}
「桜井先生は小柄な綺麗な方で大きな丸髷に浅葱の手縫、赤い珊瑚の簪が子供心に美しく、その上、先生は叱るといふことをなさらなかつた」^{註(9)}

こうした思い出の記から桜井女学校の当時の生活ぐるみの家族的な学校風景が想像される。卒業生たちの回想文集などをみると創立者の桜井ちかは、情に厚く世話を好

きで困つてゐる人たちを見捨てて置くことの出来ない性格の女性であつた。^{註(9)}注目すべきことは明治十一年に牛込払方町二三番地に貧学校を設置したことである。こうした博愛主義的な事業は横浜のミッショントーナメントで三人の婦人宣教師が混血児の養育をしたようにすべての人間が

一個の人格として尊重されるべきであるというキリスト教を基盤とした人道主義的な考え方からでている。校則に

「一、夫レ此ノ校ハ年齢ヲ問ハズ月謝ヲ受ケズ文具書物ヲ貸与シ専ラ貧人ノ子女ニシテ道路ニ遊び戯レ学ニ就カザル者ニ小学校ニ入ルノ手続ヲ教ユル者ナレバ最モ簡易ヲ主トシ文字ハ貴賤上下共必要ノ旨意ヲ示諭スルノミ」とあり、午前は桜井女学校の助教が教師となり午後一時から三時までは桜井ちか自身が教鞭をとつた。この学校の世話人として十一名があげられているが財政難のため惜しくも二年後の明治十三年四月六日をもつて廃止となつてゐる。^{註(10)}

三、桜井女学校附属幼稚園の設置

貧学校の廃止された十三年四月、ちかは桜井女学校に

附属幼稚園を設置した。これは東京で最初の私立幼稚園

で、キリスト教主義幼稚園の最初である。また、この園が日本で最初の私立幼稚園であつた。すでに前年、高等小学科を附設し次いで幼稚園を設立したのは幼児期から

の人間教育を考えてのことであつたが、それとともに女子教育との関連から女学校を母体として幼稚園を発足し

育児を学ばせることにあつた。桜井女学校の校則に「人

ノ父母タルモノ子ヲ教育成長セシムルハ即祖先ノ負債ナリ故ニ母タルモノ家庭教育ノ法ニ熟シ前債ヲ償フ事ノ道ナカル可ラス……」とあり、教則のなかに育児の教科目

をとりあげている。また毎木曜の午後には生徒以外の婦

女子の傍聴を許し、科学的な家政教育を重視していたことなど、ユニークな女子教育を行つたと考えられる。附

属幼稚園の規則及び保育科目は次の通りである。
註(1) 許可

桜井女学校附属幼稚園規則

一 幼稚園開設ノ旨主ハ学齡未満ノ幼稚ヲシテ天賦ノ知覚ヲ開達シ固有ノ心思ヲ啓発シ身体の健全ヲ滋補シ交際ノ情誼ヲ

曉知シ善良ノ言行ヲ慣熟セシムルニ在リ

一 幼稚ハ男女ヲ論セス年齢滿三年以上六年以下トス

但時宜ニ由リ満二年以上上ノ者モ入園セシムルコトアリ

一 幼稚ノ未タ種痘ヲナサス或ハ天然痘ヲ歴サル者及ヒ伝染スヘキ悪疾ニ罹ルト認ル者ハ入園ヲ許サス且ツ既ニ入園スル者ト雖トモ伝染病ニ罹ルトキハ快癒ニ至ル迄来園スルヲ得ス

一 幼稚保育ノ時間ハ毎日四時トス

一 休日ハ日曜日大祭日、夏期七月廿日ヨリ八月廿日迄冬期十
二月廿五日ヨリ一月七日迄トス

一 入園ノ日ニ在園年間ノ玩器料トシテ金參円ヲ收ムヘシ

一 每月保育料トシテ金壱円ヲ五日迄ニ収ムヘシ

一 入園セント欲スル者ハ左ノ書式ノ保証状ヲ出スヘシ

第一 保育科目

第一 物品科

日用ノ器物即チ椅子机或ハ禽獸花果等ニ就キ其性質或ハ形狀等ヲ示ス

第二 美麗科

美麗トシテ好愛スル物即チ彩色等ヲ示ス

第三 知識科

観玩ニ由テ知識ヲ開ク則チ立方体ハ幾個ノ端線平面幾個ノ角ヨリ成リ其形ハ如何ナル等ヲ示ス

五十音 計数 唱歌

単語図 説話 体操

書式

用紙
美濃紙何使府族籍某子女
姓

出生年月

右御校附屬幼稚園へ入園相願候付テハ都御規則ノ通為相守
可申依テ保証状差出候也

父母或ハ証人

姓名印

年月日

桜井女学校

御中

この規則をみると東京女子師範学校附屬幼稚園のものとほぼ同じで、これにならつたことが理解される。たゞ保育料が女子師範の方は一ヶ月金二十五銭に対し一円、入園料（玩器料）として金三円とあり、かなり高額であったことがわかる。国公立と私立の違いである。玩器料とは、フレーベルの恩物を各自に買い与えたのである。

最初の保育者は東京女子師範小学科を十三年二月に卒業した箕輪鶴^{みのわつる}で入園当初は、七名で保育が開始された。箕輪の教師履歴や園児数などについては、すでに同雑誌の四月号で「和歌山県の稚児保育所と桜井女学校附屬幼

稚園」と題して発表したので割愛したい。とにかく最初の保育は東京女子師範学校附屬幼稚園と同じにフレーベルの恩物を使用し、雅楽による保育唱歌で家鳩の遊戯などがなされたのであった。そして、その年の報告では園児數十名と増えている。

四、ツルー夫人と桜井女学校

桜井ちかが夫の伝道の地、北海道に赴任したのは翌十四年の夏のことである。ちかは女子教育家としても事業家としても極めてすぐれた才覚の持主であったが学校の規模が大きくなるにつれ財政的にも苦しく手に余るものがあり、ちかの北海道への赴任に際し学校は個人の手から米國長老教会のミッショソの配下に移されることになった。そして矢島楨^{やしまひで}が桜井ちかに代り校長となつたが実際にはツルー夫人が経営のすべてを担当し、早くも中六番町二十八番地に四千円の大金を投じ立派な校舎が建築されることとなつた。朝野新聞（明治十四年七月九日）に「桜井女学校新築落成して開業式」と題し次のように

記されている。「六番町の桜井女学校は生徒の数も日に増加するを以て、今度西洋風の一大校舎を設立し全く落成と為りしを以て一昨日其の開校式を行はれ、東京府知事も其の席に臨み、加藤弘之、フルベッキ両氏の演説あり、校主桜井昭憲君夫妻は耶蘇教会中の人なるを以て、來賓には数十の西洋人あり、許多の紳士と貴女、少娘の盛服嚴粧して樓上楼下に充满せしは實に目覺しき事なり、校主夫妻は不日北海道へ赴き、同地へも女学校を建る見込なりと聞けり。^{註(4)}こうしてミッショソの手に移った学校はツルー夫人の手によつて新しい發展をとげることになるのである。

こゝでツルー夫人のこととに少しふれてみたい。ツルー夫人(True. Mrs. Maria T. Pitcher 1840-1896)はニューヨーク州ビニシーの農家に生れ幼くして母を失い、村の学校を卒業したあと小学校の教師を勤めた。のち州内の牧師、アルバート・ツルーと結婚したが夫が外国伝道を志しながら果せず若くして亡くなつたので夫の志を継ぐためニューヨークの女子神学校に学んだ。^{註(5)}のち米国婦

人一致外国伝道協会 (The Woman's Union Missionary Society) の婦人宣教師として中国北京に赴き女学校の教師を勤めた。米国婦人一致外国伝道協会は前回で述べたがドリーマス夫人によつてニューヨークに設立された超教派によるミッショソボードである。先に述べた横浜の共立女学校の創立者であるブライン、クロスビー、ピアソンの三人の婦人宣教師を派遣したのもこの組織団体であった。明治七年、夫人は横浜に来てのち二十二番の共立女学校で伝道と教育に当つたが、この学校の生徒の一人であったのが桜井ちかである。のちに桜井女学校をツルーの手にゆだねたのも、こうした母校での出会いがあつてのことであつたと思われる。その後、同十年からは長老教会派に属し、東京や金沢で学校や教会で女子教育と宣教に従事した。特に注目されることは、同十二年にウイン夫妻と共に金沢に赴き教会の創立に尽していることである。交通が不便で仏教の盛んな金沢での伝道は大変なことであったと思われる。夫人はこゝで英語を教えウイン夫妻を助けたが、こうした基盤によつて北陸学院

が金沢では最初の女学校として同十七年に創立されてい
る。興味深いことは同十九年にこの学院に附属幼稚園
(当時は英和幼稚園と名称)が設立されたことである。創
立者、ミス・ボートルはツルーの助言や指導を受け保母
の吉田えつを一ヶ年、桜井女学校幼稚師範科に学ばせて
いる。この幼稚園はキリスト教主義幼稚園としては桜井
女学校、ブリテン女学校附属幼稚園に次いで誕生し継続
年数から云えば最も長く、現在に続く最古の幼稚園であ
る。桜井女学校とは同じ長老教会に属していたこともあ
つて両者は密接なつながりのあったことが理解される。

五、桜井女学校附属幼稚園と幼稚保育科

ツルーは創立当初からの幼稚園の教授法に満足できなか
つたようで明治十六年、幼稚園を拡張するため三番町
五二番に分校を開き米国に帰国し、この道の専門家、ミ
ス・ミリケン (Elizabeth P. Milliken, 1860-1951) を伴
つて翌十七年に戻り幼稚園の改善に当らせた。ミリケン
のことはこれまで明らかでなかつたが米国からの報告で

はフロリダ州の生れで、フィラデルフィアの公立学校及
びバーミンガhamの学校に学び Aldine 更に教員養成所
で幼稚園の資格をとつたことがこのほど明らかになつ
た。^{註明}こうして同年、九月にはミリケンの指導で桜井女学
校幼稚保育科 (一ヶ年制) が開設された。私立の保育養
成所として最初のものである。榎坂幼稚園の保母となつ
た湯浅はつ (一回卒) や先に述べた金沢の英和幼稚園の
保母、吉田えつ (二回卒) などがこゝに学んだ。これま
での保育とどのように違つたかを卒業生の回想からたど
つてみよう。ガントレット恒は「七十七年の思い出」^{註明}と
して、「ミス・ミリケンが来朝して新しく園長となるま
では師範学校の幼稚園の先生が来て教えたことも憶えて
いる。フレーベル式の恩物を用いた。また唱歌が頗るふ
るつっていた。

うた舞に、立ちつどひたる、たはむれの、めしひの君
よ、友どちよ、歌よまに くそが中の、一人の君
を、耳とくも、それときゝ知り、心あての、その名た
がへず、さゝば指さなん

それから餅搗の歌

洗ひ米、ひいて粉にしつ、湯にかけて、つきにつきぬ
く、だんごの粉、ペッタン、ペッタン

樂器がなくて笏で拍子をとつてシナの節で歌うのである
が、今日のことを考えるとまるで異國のやうな感じがす
る」とある。

盲になつた鬼が声だけをたよりに友だちをあてる遊び
の歌と思われるが当時の保育がフレーベルの恩物や母の
遊戯を用いながら歌詩や樂器はこれにそぐわない日本古
来の古めかしいものであったことが理解される。その
後、明治十二、三年にこの幼稚園でミス・ミリケンから
学んだ一柳満喜子は当時の思い出を——もう十数年以前の
ことになるが——私に話して聞かせて下さ註(四)った。一柳は近
江兄弟社の創立者、ヴァーリスと結婚した女性である。
私がお会いしたのは近江兄弟社の一室で未亡人となられ
た晩年である。ツルー夫人やミス・ミリケンが大変やさ
しい方であつたのに最初は外人が非常に恐かったといふ
女中と一緒に来て女中が帰ると泣いていたところ、外人

の先生が抱いて下さつた。始めはどこか恐しい所に入れ
られるのではないかと思った。でもそのうち外人のやさ
しさが感じられ決して恐しい人ではないことに気づき愛
情と尊敬の気持を持つようになつた。自分の家が火事に
なつたとき洋服を作つて下さつた事も忘れられないとい
う。当時の園生活でなつかしく残つているのは、クリス
マスに「靴の中の小人」という劇をしたこと、みんなで
ベンチに坐り、テーブルにお弁当を置いてお祈りをした
こと、歌といえば米国での幼稚園の歌をならつた。

Thumbs and fingers says good morning の指あそび
や、Oh mother! How Pretty the moon looks tonight!

お月様などの歌でこれらはフレーベルの「母の歌と愛撫
の歌」によるものと思われる。米国の幼稚園で歌つたも
のをミス・ミリケンが教えたようであるが英語のまゝ記
憶に残つてゐるところをみると幼児期の教育の大切さが
痛切に感じられる。フレーベルの恩物の積木で遊んだこ
とや手技で折紙をした事などの思い出は明治期の幼稚園
に共通してみられることがあるが、遊びや生活を通して

人間の教育を第一に考えていたことは注目すべきことであつた。そこではフレーベルの意図した母の教育——広く女子教育と幼児の教育が大切に考えられ、人間形成が生活や遊びのなかでとらえられていた。すなわち、草創期のキリスト教幼稚園はフレーベルの精神を形式的でなく生活の中で実践していたのである。残念なことに桜井女学校附属幼稚園は明治二十九年の学事年報を最後として姿を消して^(註3)おり、幼稚保育科も同じ頃、廃止されたようである。桜井女学校は新栄女学校と合併し女子学院として現存に至つており、こゝで数多くの女子教育事業がなされた。看護婦養成所もその一つで、また婦人矯風会を設立し久布白落実など婦人社会運動家を育てたのもこの学校であった。そして、現存する最古のキリスト教幼稚園といわれる北陸学院附属第一幼稚園もこの園を基盤として誕生したといえるであろう。

(国立音楽大学)

- 註(1)「東京の女子教育」(都史紀要九) 東京都 昭和36・11 31頁
 (2)同右書 32頁
 (3)桜井ちか子先生談「英語を学んだ時の苦心」「女子学院五十年史」女子学院 昭和三年 回想録

- (4) 桜井女学校開業願書 明治九年十月一十一月私立学校開業願 東京都公文館
 (5) 桜井淳司編「桜井ちか小伝」昭和五一
 (6) 明治十二年十月一十一月私立学校書類
 (7) 同右書類 東京都公文書館
 (8) 前掲書「桜井ちか小伝」五—六頁
 (9) 同右書
 (10) 閉校御届 明治十三年四月一六月私立学校書類
 (11) 「往復文書類」(学務課 明治十三年一月一十二月) 東京都公文書館
 (12) 前掲書「東京の女子教育」五—頁
 (13) 明治十三年四月一六月私立学校書類 東京都公文書館
 (14) 新聞集成明治編年史 第四卷 明治十二—十四 朝野新聞 明治十四年七月九日
 (15) 田村直臣著「ツル夫人之傳」故ツル夫人記念館設立所 明治二年
 (16) 「北陸学院八十年史」北陸学院 昭和四一年 一頁
 (17) 米国 Presbyterian Historical Society 425 Lombard Street Philadelphia の調査報告に於ける
 (18) ガントレット恒「七十七年の思ひ出」「女子学院八十年史」女子学院発行 昭和二六年
 (19) 小林恵子「日本の保育史に及ぼしたプロテスチント婦人宣教師の貢献」教育と福祉 アジア福祉研究所 昭和五十年二〇頁、四九頁
 (20) 明治二十九年東京府管内学事年報内表「幼稚園、雑件に関する書類」第三課文書室 東京都公文書館
 ☆お世話になつた方 (敬称略)
 東京都公文書館 東京神学大学図書館 国立音楽大学図書館 巢鴨
 教会牧師森下憲郎 女子学院図書館
 ☆写真掲載「幼児保育百年の歩み」日本保育学会編 ぎょうせい 昭和五六